

しろはく活動記録

# 古地図と城の泉 第58号

**熊本城真景図 被災前の壮観絵図**

**戦前桐生市全図226x236cm**

**百済寺所蔵絵馬石曳図原寸模写**

平成30年3月1日

しろはく古地図と城の博物館 富原文庫

城郭現地調査報告及び資料調査 博物館事業報告

1・赤星閑意 熊本城真景図 被災前の壮観な熊本城



平成27年7月31日熊本城調査研究センターさんが絵図調査に来場された。その翌年、熊本地震が発生し、復旧作業にまい進されている。熊本城の基本資料として、以下の資料をお目につけたが、今回、あの甚大な被災に思いを巡らせていると、最も著名な絵図である熊本城南面図を入手できた。この絵図は熊本城真景と題し、閑意写「閑意」朱印があり、所蔵印として、「翔変楼 図



書」なる不鮮明な朱印がある。軸表には熊本城之図とあり、所蔵文庫名も記されるが消されている。本紙は125 x 62 cmで軸装されている。永青文庫97春季展熊本城解説によれば、閑意は赤星閑意（1835～88）、熊本藩御用絵師矢野家五代良勝の門人赤星勝栄の子で、十代藩主細川斉護より閑意の号

を賜ったとある。本図は閑意の西北面図、城下町図共に南面図としてよく知られている。本図は永青文庫と熊本城顕彰会にも所蔵され、永青文庫図には金泥で櫓名等が記されている。細密な描画は変わらないが、微妙なところで違いがあり、写しではないオリジナルであることを物語っている。熊本城の被災前の壮大な姿を残す貴重な鳥瞰彩色絵図である。この図を発見して、不覚にも思い出

したことが1点、木版の熊本城南面図の版木を所蔵している。公表しようとしたが、額装城資料が100点以上積み上がっており、探し出せなかった。石版図等もあり一堂の必要がある。



以下前回紹介資料 画像はホームページで『古地図と城の泉22号』参照

**御天守方御間内之図** 寛政十年中戊午十一月1798年 300 x 300 cm 天守部分78 x 130 cm 小天守五層大天守穴蔵より七層の絵図 原図は熊本県立図書館所蔵

**御城内御絵図** 明和六年1769年 363 x 327 cm 御大工棟梁手前之控方元文3年1738年以降変更記入宝暦13末年1763年御作事方焼失二付手前控見当不申候二付書記明和6年1769年合印伺相 未仕置相成不申分



**肥後国熊本城廻普請仕度所絵図 肥後国熊本之絵図** 寛永十一年三月一七日細川越中守 幕府老中宛修理願絵図 熊本城修理絵図として最も古いもの 176 x 207 cm 『城郭・侍屋敷古図集成熊本城』12-13頁所載絵図、「寛永9年熊本城に入った細川忠利が1年余を経た寛永11年熊本城改修計画をたて、幕府に許可を求めた絵図」とある。  
**熊本城廻絵図** 172 x 130 cm **熊本城廻絵図** 156 x 125 cm

## 2・石曳図絵馬原寸写 原図滋賀県愛知郡百濟寺所蔵

著名な築城巨石運搬絵図である。原本は巨大な絵馬であり、本図は軸装された写しである。作者は護城鳳山、昭和十年盛夏模写とある。額装原図額縁体裁図が裏面に在り、五分一で20 x 36 cmということは絵馬の原寸は100 x 180 cmということになり、額縁厚さ7分、高さ内寸8分、外法1寸2分（地板共）、用材杉とある。本絵図は95 x 180 cmであり、測定誤差を考えるとほぼ忠実な原寸の写しといえる。軸装長は182 cm、絵馬は容易に持ち出せないが、本図は額縁まで再現しており、運搬可能で、研究に資するところ大きいといえる。





## 新収集情報報告

掲載は入手順に入手後、翌日に記載しています。メモ代わりの備忘録ですので順不同です。

掲載分類は城郭図、城郭錦絵は城郭、群馬地図、資料は群馬、錦絵地図は錦絵、地図類は航空写真も地図、錦絵軍事、砲術、調練は軍事、後はタイトル通りです。

### 1・古絵図・古地図

**改正東京区分絵図全** 竹原鼎 明治9年 中村熊次郎 銅版色刷 表紙付

**近江八幡市都市計画図その二・** 1万分Ⅰ 近江八幡城

**近江八幡都市計画図** 昭和36年 25000分Ⅰ 近江八幡城・安土城・岡山城

**いわき都市計画図1** 昭和45年 2万5千分Ⅰ 平城

**徳島市全図其の6** 都市計画図1万分Ⅰ

**白河都市計画図2図9** 昭和46年 2500分Ⅰ 図2に小峰城

**大野市文化財分布図** 5万分Ⅰ 教育委員会 大野城

**白河都市計画図** 昭和46年 1万分Ⅰ 小峰城

**相馬都市計画図8** 昭和46年 2500分Ⅰ 中村城

**二本松都市計画図** 3000分Ⅰ 二本松城

**平都市計画図** 昭和33年昭和42年 1万分Ⅰ 平城

**竹田図** 都市計画図 3000分Ⅰ 岡城 刊記無

**いわき文化財地図** 昭和50年 5万分Ⅰ

**昭和43年度東京都市群パーソントリップ調査ゾーン割図** 10万分Ⅰ

**北海道開発庁地質図** 昭和33年 工業技術院地質調査所 2枚

**北海道開発庁地質図** 昭和40年 北海道立地下資源調査所 1枚

**地質構造図秋田** 1968年 50万分Ⅰ 工業技術院地質調査所

**20万分Ⅰ地形図22枚** 帝国図20枚昭和5年・地勢図1枚昭和30年・師団図1枚明治44年

**新潟県都市別地図長岡市全図・高田市全図** 12000分Ⅰ 大正4年 北越新報附録

増補訂正宮城県管内図全 三輪秀春 明治20年 伊勢斎助出版 銅版色刷  
小県郡全図・上田市街 明治31年 柴崎虎五郎 松木保三郎刊  
小県郡全図 明治30年 柴崎虎五郎 松木保三郎刊  
**東京府南多摩郡鶴川村全図** 現町田市 昭和2年 3000分I 132x273cm  
小豆島寒霞溪表裏二十景案内真図 大正10年 大森国松  
茨城県真壁郡下館町全図・町勢要覧 昭和10年  
御宿の志るべ・秋田市街全図 達磨館引札 石版  
西尾町全図 ヤママサ印行 刊記無戦前  
愛知県幡豆郡平坂町全略図 20000分I 戦前  
最新大和歌山市街地図 昭和14年 和楽路屋 市案内  
福島県管内図全 明治20年 福島県農商課編 賛々舎 銅版色刷印刷 若松・福島・三春・白河・二本松・中村・平・棚倉旧城下地図  
吉崎山之全景 福井県越前国坂井郡 銅版印刷  
甲府市全図 12000分I 刊記無  
釜山府市街図南部・北部 5500分I 昭和11年 武田信義 武田広文堂  
番町絵図 吉文字屋版 江戸切絵図  
台北市街図 13000分I 新高堂編輯 昭和8年  
甲府案内・甲府市全図 昭和10年  
摂州大坂泉州河内大和紀州大地震大津波都合五ヶ国 木版 嘉永七年 摂海絵図  
京都府管内地図全 銅版色刷 刊記無 明治10年頃か  
**分間尾勢海岸之図** 幕末彩色絵図 桑名城・長島城・木曾川・宮宿御殿  
信濃国木曾御嶽山全図 明治27年 児野文助 竹倉鍵太郎 銅版

## 2・古典籍・古記録

万延開版下野掌覧完 万延元年 雪斎菅原豊直 舛屋浅吉・荒物屋伊右衛門 日光御宮絵図・下野9郡略図・那須郡之図・塩谷郡之図・芳賀郡之図・河内郡之図・都賀郡之図・寒川郡之図・安蘇郡之図・足利郡之図・梁田群之図  
赤穂義士対話全 細川越中守藩堀内出伝右衛門私記 明治21年写  
越中富山藩初代藩主前田利次知行取付目録 合3374石2斗6升9合 承応4年4月21日利次公御実印 近藤甲斐守宛  
弘道館記拓本 天保9年 水戸斉昭撰 80x150cm 本拓

## 3・印刷資料

## 4・錦絵・引札・双六・絵葉書・古写真

錦絵高輪蒸気車鐵道之図 昇鳥一景 3枚続き 海老屋林之助

## 5・軍事資料・武器武器

大日本帝国軍艦高砂 明治22年 田中良三 石版  
黄海之役海戦陣形図 東台書院 明治29年 岩崎元治郎 石版 全7図中1・3図欠5図と解説6枚  
**稲富流砲術伝書** 慶長19年 内山次右衛門尉照辰朱印 勝間田長次郎殿 三拾式相之書

## 6・城

信玄全集 16巻石水寺物語下・17巻軍法之巻・18巻公事之巻上・19巻公事之巻下・20巻将来軍記上木版絵図**諏訪原城絵図・小山城絵図・長篠合戦図**  
金華山総合開発平面図 5000分I 青焼き 刊記無 62x103cm 岐阜城 2枚

**川瀬巴水大手門之春之夕暮** 昭和27年 江戸城新版画 26 x 39 cm 額入39 x 51 cm

**御城御日記伝 山内一豊高知築城記録** 慶応4年写田所実吾嵩廣

**錦絵織田信長公清須城修繕御覧之図** 明治 芳藤 3枚続き

**配軍明瞭長篠古戦場地図附墳墓図・慶長年間古図** 皆川登一郎編 長篠戦記附録 豊田書店 長篠附近徳川武田両軍戦闘略図明治34年・長篠古戦場墳墓之図・慶長年間長篠古戦場地図

**城制図解** 宮原万有文庫蔵印 写本 貞享元年冬書 元文10年写文化10年写嘉永4年写城郭図多数収録するも省略 前号同一書参考

**意筈録秘伝書** 手柄注文・新築城徒移規式之事・降参城作法之事・降参城請取作法之事・降参城請取在住之事

**錦絵瓢箪談五十四場第一梶浦与六矢矧の橋にて猿之助を見ゆ** 芳艶 藤吉郎出会いの場

**錦絵瓢箪談五十四場第五十四大尾久吉公目出度小田原を凱陣したふ** 芳艶 小田原役戦勝

**陸奥国盛岡城絵図** 慶長年間之御城下絵図面 安政5年町会所用に写置之 軸装戦前複製城名記載なし

**城文献** 国華988号安土城下・安土城天守復元図13枚・

**城絵葉書 南朝史蹟関城址絵葉書** (関城外大將山・賊高師冬軍ノ鑿テル坑道趾・関城老樹・関城本丸物見塚・関城ノ碑他2枚計7枚)・津市城趾・

購入見合わせ 橋本興家日本の城29000円所蔵済み・佐賀城大概図享保11年津和野藩亀井家旧蔵85000円検討に値せず・津山城鳥瞰図所蔵済み・末森城図3枚痛み有・彦根城絵図新しい・

## 7・群馬県史料

**上野国甘楽郡白雲山妙義神社之図** 明治26年 木版色刷 極美 袋付 関口六合雄

**新撰上州妙義詣** 星雲堂 寛政六年 鳥橋尚富

**上州伊香保温泉場木暮金太夫浴室之図KINDAYUHOTEL** 幾英画 精行社銅版部 銅版細密鳥瞰図

**群馬県桐生市全図・桐生市広沢町全図** 昭和18年 松原義勝 全国町村地図刊行会陽明社 3000分1 6枚組 1+2図79 x 149 cm・3+4図104 x 157 cm・5+6図77 x 202 cm計226 x 236 cm

## 8・その他

あとがき

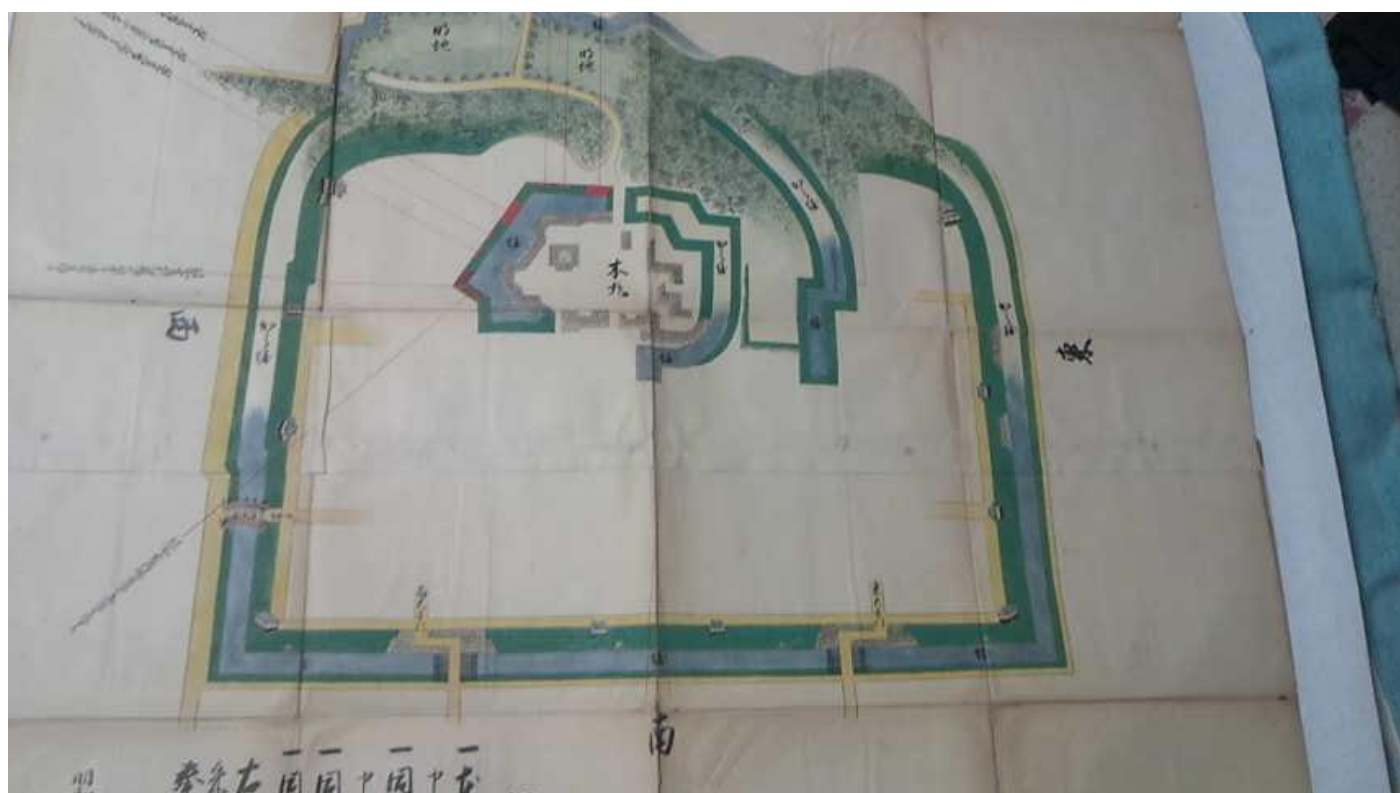
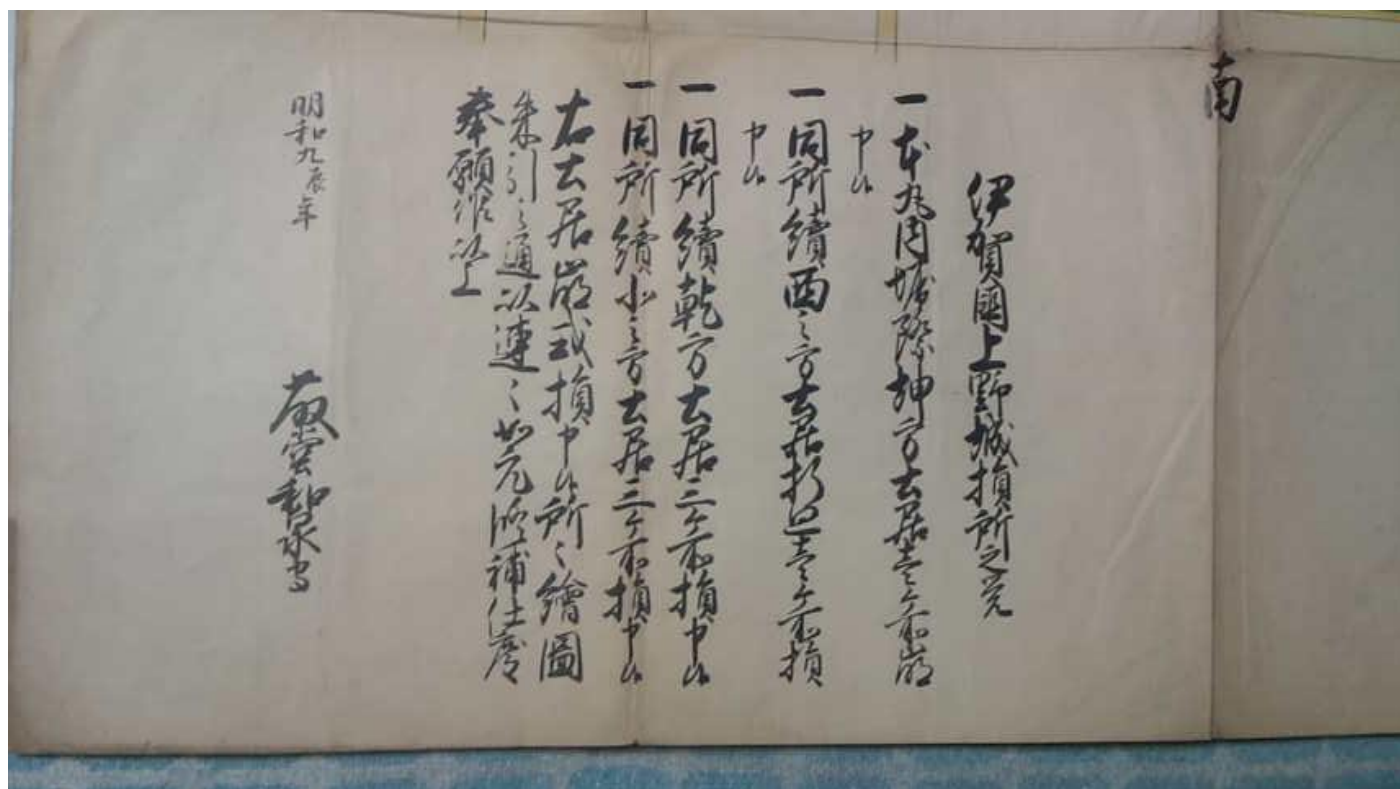
### 1・城、古地図仲間の活躍

A 去る入札会で古河城修理絵図が入札で買えなかったと記載したら、三重の鈴鹿地域防災総合事務所の盆野さんから、落札したとの連絡をいただいた。研究仲間に落札され幸いであった。盆野さんは歴史地震、災害の調査をされており、視点が我々、城絵図研究や縄張変遷と違い、いわば、災害のプロで修理絵図は両研究者の境界にある。先号の小田原地震についても問い合わせをいただいた。何気なく見ていたら、目の前に赤穂城下町大地震の瓦版があった。年期はないがリアルに城と城下の被害、津波の発生が描かれている。幕末に成ると地震洪水等災害の瓦版が急増する。近年の東日本大震災、熊本地震をかんがみても、城の災害研究の重要性は明らかで、資料も無尽蔵にあるように思える。城研究とは違う視点を楽しみにしたい。

追記、伊賀上野の福井健二さんから、中井均氏を会長とする城郭災害の研究会があるとのこと、教えていただきました。盆野さんも所属とか。明和9年1772年の伊賀上野城修理絵図について画像の依頼があり、お送りしました。これはもう10年以上前に開運なんでも鑑定団の依頼で、姫路城、丹後田辺城、村上城、篠山城修理絵図と共に提供したものです。開館記念プライベートシュ

一を観られた上毛新聞の記事を見て、来場、安土城や吉田郡山城、小谷城、武田館、春日山城とお見せして、希望で修理絵図を出展、鑑定士は思文閣の田中社長でした。福井健二さんには日本城郭近畿学生研究会時代から賛助会員として参加、ご指導いただいています。

#### 明和9年1772年伊賀上野城修理絵図



**B** 近畿学研以来の50年来の友人である崎田欣二氏が全国城郭移築建造物一覧表を作成された、江戸藩邸や藩校まで、およそ1000件掲載されている。どちらかというとい兵法戦略縄張軍事派の小生は作事といわれる城郭建築は甘く見がちですが、崎田さんも高田さんも、縄張から建築までオールマイティなのには驚かされます。今回の一覧表の移築建造物は明治以降の城跡の変遷記録とし

て貴重な文化遺産ですので、成果を生かし、長く残されるように願うのみです。ただ、いまだに瓦や礎石が城の重要要素であるとは理解できません。

C 此の所、骨董市や目録でお付き合いができた未知の城仲間からよく依頼をいただく。城の研究者は多くても、城コレクターは絵葉書以外はおられないとの理解でしたが、個々の城郭にはコレクターがおられるます現地の教育委員会、博物館、大学が熱意を持って取り組まれているのはわかりますが、地方史研究や郷土史研究の領域を超えた熱意ある個人の方々から電話をいただきます。ほとんどは資料探求依頼です。城についての頒布依頼も絶えませんが、城郭基本資料は博物館事業として協力はしますが、頒布はしていません。逆に、**研究家からの城資料買取依頼**に対応していますので、城郭資料をお分けいただける方は御一報ください。多分、最もご希望価格で買い取れると考えています。昔ほど、日本にある城資料のすべてを手元という程の気力や情熱、資本力はないです。城郭文献は日本3大城郭文献所蔵家山県謙二さんの蔵書を含めて、市場に出たものは入手していますので、重複本は整理ができれば順次、日本の古本屋に掲載します。5万冊は越える予定です。これらは連日ネットで発注いただいています。まだ七百冊余りです。

D 群馬県古書籍商組合になぜか、**東京の科学書院**さんがおられる。群馬に倉庫があるとのこと。このほど。近世絵図地図資料集成・江戸時代における北方図解題目録を出された。加藤社長は1996年以降限定100部で定価25万円の巨大な絵図集を過去22回も刊行されている。とても採算が取れると思わない、売り上げ総額55000万円、個人事業とも思えない、高額すぎて小生のような個人コレクタには手が出ない、1冊だけ求めたが、今はA2だが、以前はA1サイズで大きくて置けない。整理に困る。ただ、刊行されている地図は尋常ではない、全国の大学図書館、大名家、公立古文書館等普段ほとんどお目にかかる機会のない貴重な絵図地図である。使命感がなくてはとてもできない。解説は何時も北海道の貴重資料を発注いただく高木崇世芝先生である。世の中は狭いと感じた。多分、全国の主要な図書館か大学が購入されていると思われるが、**災害でのリスクを考えると後世に残る事業と後の世に伝えられるかと思われる。**

## 2・私事、高齢化には勝てない。

昨年古稀に成り、8月血糖値540、HBA1C12.6でかかりつけ医から、即病院に緊急入院に成り、教育入院2週間、退院後半年、食事療養で、炭水化物を減らし、スイーツゼロ、間食ゼロの生活でHBA1C6.1と正常になったら。今年になって、1週間前から、右胸部に違和感があり、かかりつけ医に診てもらったら胆嚢炎で又緊急入院、何の準備もなく大慌てで、これが70歳かと実感。6か月に2回も入院するとは想定外。ヤフオクや日本の古本屋対応は娘にお願いしたが、骨董市や目録と重ならなくて幸い。大事になっているところでした。企業は人なり、自分がいない世界を作ることが仕事と人材養成し、企業のあり方を何十年も問うてきた身からすれば、事業ということの責任、個人事業の限界を痛感、5年というタイムリミットを設定したが、果たしてやり遂げられるか？100号75歳を目安にしている。城三昧人生、博物館資料の発掘と提供、城郭博物館の完成、気力と生きがいに満ちている、精神年齢は20歳であるが、体力の消耗とパーツの劣化には勝てない。しかし、人生の不思議、何かやり遂げると、次の大事が順番にやってくるのはなぜだろうか？運命を感じる。入院、74時間絶食点滴、血糖値48と乱高下、幸い、胆嚢炎は大事なく1週間で退院。途中外出で仕事を処理する羽目に。帰るなり近所の温泉で元気に。

## 3・城から現代まで

20年も前の世界軍事学講座を読破。共感するところ大だった。私見を交えて概略以下の通り。戦国時代の小銃の出現は従来の騎馬戦による武者の戦いを、誰でも戦える時代に変えた。それはさらに大砲を生み、従来型の城郭の使命を減少させた。対応する砲台や稜堡城郭を生み、国民皆兵の時代、武士の時代を終わらせた。近代になり、移動砲台である戦車、移動城郭巨大戦艦、水中要塞

である潜水艦、第一次世界大戦以降は3次元兵器戦闘機の出現、攻撃ヘリ、大型輸送機、基地防禦態勢等空軍、その後、長時間潜航可能な原潜、ほとんどの一国の軍事力を凌駕する移動軍事基地巨大空母、第2次世界大戦における核開発、ステルス戦闘機、長距離戦略近代ミサイル兵器、対艦対空巡航ミサイルや核兵器搭載弾道ミサイルによる長距離破壊力、今も使われる毒ガス化学兵器、迎撃ミサイル、さらに、宇宙戦争ともいべき偵察衛星、それを破壊するキラー衛星。時の時代を越えて軍事技術は最先端の技術開発により、防衛、攻撃能力を維持してきた。それは戦国時代の城も近世の砲台も現代の軍事要塞も変わらない。世界有数の軍事力を持つ日本が対応に追われる姿は規模の大小は別にして、人類、時代共通か。戦闘員も戦国時代の武士から、幕末の国民皆兵に、さらに、近年は高度な技術を持つ戦闘員の技術戦に。城で行われている攻撃も防衛も現代の戦争も、政治による合法的殺し合いに過ぎない。無力で防衛できない以上、防衛力、自衛力という名の軍事力は不可避と思われるが、コントロールできる能力が人間にあるのであろうか？核ミサイルが原発という核施設に打ち込まれたら人類は滅亡する。それが最新技術であるなら、それは人災と言わざるを得ない。軍隊を自衛隊、核施設を原発と言い換えても、軍隊は必要、原発は不要と思える。

発行所

---

しろはく古地図と城の博物館 富原文庫

379-0109 群馬県安中市秋間みのりが丘5-73

携帯電話 090-2722-4689(しろはく)

FAX 027-315-4689(しろはく)

Eメール [shirohaku@kym.biglobe.ne.jp](mailto:shirohaku@kym.biglobe.ne.jp)

ホームページ <http://www.shirohaku.com/>

---

ミュージアムショップ 群馬県古書籍商組合加盟

博物館資料専門店

古地図と城 古書肆 城郭文庫

---

代表

富原道晴

